

地震が想定される活断層帯

影響が想定される地震

熊本県には、布田川断層帯や日奈久断層帯のほか、人吉盆地南縁断層、出水断層帯を始め、多くの活断層が存在しています。平成 28 年に発生した熊本地震の震源は、布田川・日奈久断層と言われていました。

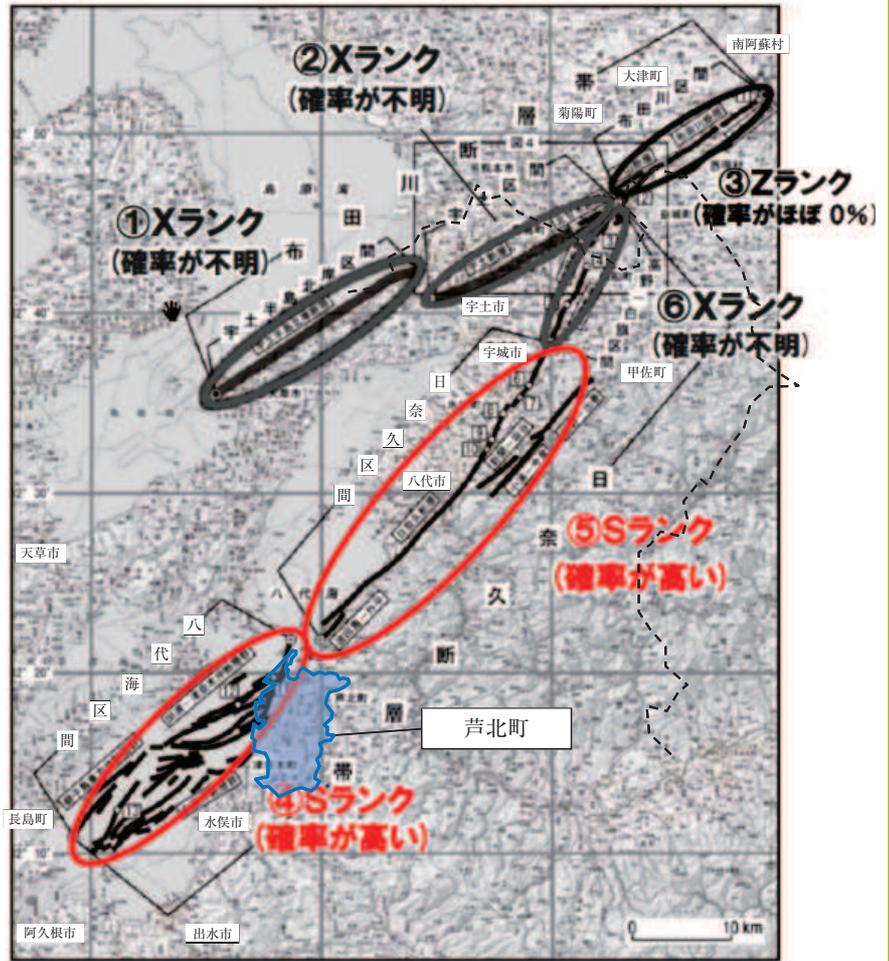
耐震改修促進計画策定に際しては、「①地域の活断層、②海溝型巨大地震及び③全国どこでも起こりうる直下型地震」に対して地盤挙動を検討することになっています。

熊本県では、地震・津波被害想定調査報告書にて、上記の地盤挙動を検討しており、それらの地震による地盤挙動から当町に最も大きな影響を与える地震を選定した。

上記の①に係わる地震は、下表に示すことが出来る。②の地震は、「南海トラフ巨大地震」である。③の地震は、中央防災会議において地震に対応する活断層が地表で認められない場所で起こることが想定される地震としている。これは、過去の事例と防災上の観点から、地震規模の上限をマグニチュード6台の最大 6.9 としたものを言います。

これら想定される地震から、「全国どこでも起こりうる直下の地震」が最も大きく地盤の揺れを起こすことが判明した。

検討対象とする地震の規模



検討対象とする地震の発生確率

断層帯名	長期評価で予想した地震規模 (マグニチュード)	ランク (注)	地震発生確率			平均活動間隔
			30年以内	50年以内	100年以内	最新活動時期
① 布田川断層帯(宇土半島北岸区間)	7.2 程度以上	X ランク	不明	不明	不明	不明
						不明
② 布田川断層帯(宇土区間)	7.0 程度	X ランク	不明	不明	不明	不明
						不明
③ 布田川断層帯(布田川区間)	7.0 程度	Z ランク	ほぼ 0%	ほぼ 0%	ほぼ 0%	8,100 年 -26,000 年程度 平成 28 年 (2016 年) 熊本地震
④ 日奈久断層帯(八代海区間)	7.3 程度	S* ランク	ほぼ 0 ~ 16%	ほぼ 0 ~ 30%	ほぼ 0 ~ 50%	1,100 年 -6,400 年程度 約 1,700 年前以後 - 約 900 年前以前
⑤ 日奈久断層帯(日奈久区間)	7.5 程度	S* ランク	ほぼ 0 ~ 16%	ほぼ 0 ~ 30%	ほぼ 0 ~ 50%	3,600 年 -11,000 年程度 約 8,400 年前以後 - 約 2,000 年前以前
⑥ 日奈久断層帯(高野 - 白旗区間)	6.8 程度	X ランク	不明	不明	不明	不明
						約 1,600 年前以後 - 約 1,200 年前以前

注：活断層における今後 30 年以内の地震発生確率が 3% 以上を「S ランク」、0.1 ~ 3% を「A ランク」、0.1% 未満を「Z ランク」、不明 (すぐに地震が起きることが否定できない) を「X ランク」と表記している。

：地震後経過率が 0.7 以上である活断層については、ランクに「」を付記している。

出典：熊本県「熊本県地震・津波被害想定調査結果の概要について」より抜粋・加筆